

中間評価（ステージゲート審査）結果

研究課題名： 小胞型神経伝達物質トランスポーターを切り口とした革新的創薬

研究代表者： 宮地 孝明(岡山大学 研究教授)

本課題は、分泌小胞に伝達物質を運ぶ小胞型神経伝達物質トランスポーターの全体像と仕組みを明らかにし、生活習慣病に対する新たな知見と新しいタイプの革新的創薬を目指すことを目的としている。

フェーズ1では、独自のプロテオリボソーム技術を駆使して小胞型神経伝達物質トランスポーターの網羅的同定と機能解析を行った。加えて、末梢組織へ解析対象を広げ、肥満モデルを用いて神経伝達調整機構との関連性を示した。十分な成果が得られている。

フェーズ2では、フェーズ1で得られた知見を基に、神経伝達トランスポーターの機能解明から機能制御へと展開する。基礎から応用への橋渡しを意識した多面的アプローチは発展性に富むが、リソースの分散リスク、疾患との関係が明確でないがんや生活習慣病を標的にすることに違和感があり、研究対象の絞り込み、出口戦略の検討が必要と考えられる。創薬開発につながる成果を期待する。

以上